

研究紹介

学校経営

活力と創意あふれる学校経営の推進

学校間連携を生かして

下関市立豊浦小学校長

松永章



一 はじめに

下関支部では、五十二名の校長で下関市小学校長会を組織し、全体協議や九地区のブロック研修、研修部が運営するグループ研修等を実施して学校経営上の諸課題の解決のために連携した取組を推進している。



昨年度、下関市では全小中学校がコミュニティ・スクール（CS）に指定された。二年次となる今年度は学校運営協議会を中核としてその充実を図り、各学校や地域の特色を生かした活動や支援を推進していく必要がある。このことを踏まえて、下関市小学校長会では、今年度の活動の重点を次の四点とした。

(一) 新学習指導要領への創意ある取組

(二) 確かな学力の定着

(三) 豊かな心の教育の充実

(四) 校種間、家庭、地域との連携

Ⅱ 下関市コミュニティ・スクールの充実

これらの取組を推進するためには、校長会の組織力を生かした校長間の連携が重要である。

二 豊北ブロックの実態と課題

少子化が進む中、本市でもほとんどに児童数が減り、小規模化が加速している豊北ブロック七校の校長が推進する学校間連携の事例について紹介する。

(一) 学校及び地域の実態

各学校は地域に密着しており、きめ細かい指導が可能である。また、学校運営協議会を立ち上げ、その充実と深化に努めている。しかし、各学校は広範囲に点在しており、極少

人数学級化や複式学級化が急速に進んでいる。

(二) 学校が共通に抱える教育課題

ア 児童の課題

・多様な考えや思いに触れる機会が乏しい。

・コミュニケーション能力が不足している。

イ 教職員の課題

・よりよい授業や学級経営に触れる機会が少ない。

・小規模校のため人材育成の場としての基盤が弱い。

三 研究の実態と校長の役割

豊北ブロック校長会では、各校が抱えている実態を洗い出して共通の課題として捉え、次の二点を具体的な目標とした。

(一) 児童については、コミュニケーション能力を伸ばし、人間関係を豊かにし、学力向上への意欲の高揚を図る。また、中一ギャップ解消の一助とする。

(二) 教職員については、人材育成の観点から研修を深め、互いの授業を見合い、授業を実践し合うことにより授業力を高める。

これらの目標達成には、学校間連携が重要と考え、まず校長間の連携を密にして企画立案し、取組の道筋を示すことにした。また、取組においては、主任等を実践の中心とすることで人材育成をめざした。

(一) 「小中連携推進デザイン」

平成二十二年度から教務主任を中心に中学校とも連携しながら「人を大切にし、自分の心を鍛える学習規律・生活規律」を軸に推進した。

(二) 「きらめき学習交流会」

平成二十四年度から教頭を中心にブロック内の七小学校の全ての児童を対象に学習交流会を行った。(一) 四年生はA小学校とB小学校の二会場で実施し、五年生はA小学校、六年生はC中学校を会場として実施した。

四 おわりに

これらの実践は、校長間の連携の重要性を示しており、学校規模を越えて取り組む必要がある。今後のCS推進には「運営協議会の活性化」「学校応援団の組織化」「コーディネート配置」「小中連携の促進」等の課題がある。各校独自の取組とともに校長会

における組織力と連携力を強化して取り組んでいくべきと考えている。

